

# 総務委員会速記録第三号

2016年3月15日

<b>出席議員 十五名</b>			
委員長 加藤 雅之君	おときた駿君	小磯 善彦君	
副委員長 新井ともはる君	まつば多美子君	秋田 一郎君	
副委員長 柴崎 幹男君	木村 基成君	清水ひで子君	
理事 石川 良一君	大場やすのぶ君	欠席委員 なし	
理事 徳留 道信君	近藤 充君		
理事 鈴木 隆道君	小山くにひこ君		

<b>出席説明員</b>			
<b>総務局</b>	局長 中西 充君	労務担当部長 栗岡 祥一君	
	危機管理監 田邊揮司良君	主席監察員 藤井 秀之君	
	次長 内藤 淳君	行政部長 西村 泰信君	
	理事 山手 斉君	多摩島しょ振興担当部長	
	総務部長 小暮 実君	大島災害復興対策担当部長	佐々木秀之君
企画担当部長首都大学調整担当部長		事業調整担当部長兼務	
尖閣諸島調整担当部長		区市町村制度担当部長	小菅 政治君
オリンピック・パラリンピック	初宿 和夫君	総合防災部長	矢岡 俊樹君
調整担当部長兼務		防災計画担当部長	小林 忠雄君
訟務担当部長 和久井孝太郎君		防災対策担当部長	小久保 修君
復興支援対策部長 菊地 俊夫君		統計部長	伊東みどり君
復興支援調整担当部長		人権部長	箕輪 泰夫君
被災地支援福島県事務所長兼務	野口 毅水君	<b>選挙管理委員会事務局</b>	局長 安藤 弘志君
行政改革推進部長		<b>監査事務局</b>	局長 猪熊 純子君
自治制度改革推進担当部長兼務	三木 暁朗君		監査担当部長 副島 建君
情報通信企画部長 中島 毅君			

<b>本日の会議に付した事件</b>	
意見書について	
監査事務局関係	
予算の調査(質疑)	
・第一号議案 平成二十八年度東京都一般会計予算中、歳出 監査事務局所管分付託議案の審査(質疑)	
・第三十八号議案 東京都監査委員の給与等に関する条例の一部を改正する条例	
選挙管理委員会事務局関係	
予算の調査(質疑)	
・第一号議案 平成二十八年度東京都一般会計予算中、歳出 選挙管理委員会事務局所管分付託議案の審査(質疑)	
総務局関係	
予算の調査(質疑)	
・第一号議案 平成二十八年度東京都一般会計予算中、歳出、債務負担行為 総務局所管分	
・第二号議案 平成二十八年度東京都特別区財政調整会計予算	
・第四号議案 平成二十八年度東京都小笠原諸島生活再建資金会計予算	
付託議案の審査(質疑)	
・第二十九号議案 東京都知事等の給料等に関する条例の一部を改正する条例	
・第三十号議案 非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	
・第三十一号議案 東京都職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例	
・第三十二号議案 東京都職員定数条例の一部を改正する条例	
・第三十三号議案 東京都非常勤職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例	
・第三十四号議案 市町村における東京都の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例	
・第三十五号議案 東京都区市町村振興基金条例の一部を改正する条例	
・第三十六号議案 住民サービスの向上と行政事務の効率化を図るために住民基本台帳ネットワークシステムの都道府県知事保存本人確認情報を利用する事務等を定める条例の一部を改正する条例	
・第百四号議案 包括外部監査契約の締結について	
・第百五号議案 東京都と神奈川県との境界にわたる町田市と相模原市との境界変更について	
・第百六号議案 境界変更に伴う財産処分に関する協議について	
・第百十七号議案 特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例	
・第百十八号議案 都と特別区及び特別区相互間の財政調整に関する条例の一部を改正する条例	
報告事項(質疑)	
・東京都における情報通信施策の展開に向けた現状・課題と今後の方向性(素案)について	
・平成二十八年度都区財政調整の概要について	
・東京都国土強靱化地域計画について	
・第三期東京都犯罪被害者等支援計画について	

<b>石川委員</b>	グローバル人材の育成について伺います。 <p>私は、昨年の総務委員会での事務事業質疑におきまして、職員の人事施策の中長期的な視点と信賞必罰の必要性について指摘をさせていただいたわけであります。同様な視点から、今日は、グローバル人材の確保の必要性について質問をさせていただきたいと思います。</p> <p>知事は、年頭の挨拶の中で――ちょっと長くなりますけれども、引用させていただきます。</p> <p>振り返ってみますと、都市外交、危機管理、国際金融、こういう分野の人材が足りません、二〇二〇年にオリンピック・パラリンピック、二〇一九年にラグビーワールドカップがあります、世界中の支援がなければ、この二つの大会は成功しないんです、世界中の人たちと、通訳を入れなくて対等に話せる人材がどれだけいるか、特に若い人には、じゃあ、私がやってやろうという思いでやってもらわないと困るんです、要するに、自前の、これだけの人間がいて、外の組織に頼らないと都政が直面する課題に対応できないということは、人材の養成を今までやってこなかったということであって、それは反省しないといけない、もちろん、外の組織の力をかりるといえるのは決して悪いことではないです、しかし、そのことを十年後も二十年後も三十年後も続いていて、それで組織として活性化するのか、特に若い世代の人に申し上げたいのは、新しい分野に果敢に挑戦し、みずから伸びていく、人に頼らなくてもやれる組織にしていく、世界の上から数えて十番目ぐらいの大きさにあって、国と同じ規模の人員も予算もあるわけですから、その中で新しい課題に挑戦できないのは恥ずかしいと思わないといけないと思っておりますと、かなり辛辣ないい方をしているわけであります。</p> <p>そこで、都が取り組んできたグローバル人材の育成策についてお伺いいたします。</p>
<b>内藤次長</b>	オリンピック・パラリンピック大会準備や姉妹友好都市との連携強化など、都の国際業務がより高度化し、加速度的に増加する中、すぐれた語学力と職務遂行能力を兼ね備えた職員を計画的に育成することは重要であるというふうに認識しております。 <p>ただいま理事から、知事の年頭発言を引用していただきましたが、都はこれまで、国際業務を担い得る職員の育成に向けまして、管理職候補者等、一定の選抜を経た職員をアメリカの大学院や在外公館などへ派遣してまいりました。</p> <p>また、各局事業におきまして海外対応を行う職員などに対して、三カ月程度の海外調査研修を実施するほか、語学学校通学や通信講座の受講なども支援してまいりました。</p> <p>さらに、昨年三月には、都の執行体制及び人材育成の一層の強化を図る観点から、都庁組織・人事改革ポリシーを策定いたしまして、職員の国際対応能力向上への支援を拡充することとしております。</p> <p>具体的には、語学力や異文化理解力と東京の歴史文化に関する教養を兼ね備えた都庁国際化リーダーの育成や、語学学習の職員向けポータルサイトの開設など、国際業務の中核を担い得る人材を数多く育成するため、そのためのさらなる取り組みに着手したところでございます。</p>
<b>石川委員</b>	体系的にグローバル人材の育成に取り組んできたことは理解をいたします。 <p>我が党が主張しております、若手職員の海外研修を通じた自治体間交流の推進のさらなる取り組みを進めていく必要があると思っております。</p> <p>都庁の国際化に向け、都庁国際化リーダーの育成により裾野を拡大し、多様な国際業務へ活用していくことも重要と考えております。新しい取り組みとして開始をいたしました都庁国際化リーダーの実施状況と今後の活用についてお伺いいたします。</p> <p><b>内藤次長</b> 都庁国際化リーダー育成プログラムでは、平成二十七年度からの五年間で千人の育成を行う予定でございまして、今年度は二百十三名が受講いたしました。</p> <p>受講者の選定に当たりましては、近年の新規採用職員の約三割が日常英会話が可能であり、職務遂行に必要なレベルの語学力を有する職員も約一割程度存在することから、こうした若手職員の中から、職務に対する専門性や意欲を重視して決定しております。</p> <p>第一期生となる今年度の受講生は、約十カ月にわたる英会話や異文化理解に対する講義等を受けた結果、英語でのプレゼンテーションや、職員によっては英語での議論も行うことができる水準にまで、その能力を向上させております。</p> <p>研修終了後は、英語以外の語学習得の支援や職務を通じた専門性強化、海外研修への派遣等により、語学力と職務遂行能力を相乗的に高めながら、都庁版グローバル人材へと段階的に育成し、活用してまいりたいと考えております。</p>
<b>内藤次長</b>	都庁国際化リーダー育成プログラムでは、平成二十七年度からの五年間で千人の育成を行う予定でございまして、今年度は二百十三名が受講いたしました。 <p>受講者の選定に当たりましては、近年の新規採用職員の約三割が日常英会話が可能であり、職務遂行に必要なレベルの語学力を有する職員も約一割程度存在することから、こうした若手職員の中から、職務に対する専門性や意欲を重視して決定しております。</p> <p>第一期生となる今年度の受講生は、約十カ月にわたる英会話や異文化理解に対する講義等を受けた結果、英語でのプレゼンテーションや、職員によっては英語での議論も行うことができる水準にまで、その能力を向上させております。</p> <p>研修終了後は、英語以外の語学習得の支援や職務を通じた専門性強化、海外研修への派遣等により、語学力と職務遂行能力を相乗的に高めながら、都庁版グローバル人材へと段階的に育成し、活用してまいりたいと考えております。</p>
<b>石川委員</b>	グローバル人材は、単に語学力だけではなくて、仕事ができる人材が必要なことはそのとおりなわけであります。 <p>知事の発言でも、都市外交、危機管理、国際金融の分野では人材が不足をしていると指摘しております。特にラグビーワールドカップとオリンピック・パラリンピックを控え、次々に国際的な課題が発生する都では、スピード感を持った対応が必要といえるわけであります。</p> <p>柔軟に即戦力としてのグローバル人材の確保も重要と考えますが、見解をお伺いいたします。</p>
<b>内藤次長</b>	都はこれまで、新たな都政課題に対し、多様なチャンネルを活用して臨機応変に必要な人材を確保してまいりました。例えば新公会計制度への対応に当たりましては、企業財務の職務経験に着目してキャリア活用採用を実施いたしました。また、サイバーセキュリティーの重要性が増大していることを踏まえまして、専門知識、経験を持つ外部人材を任期つき職員として採用しております。 <p>現下の都政におきましては、国際的な連携や調整が必要な課題に迅速に対応しなければならない場面が増大しておりまして、国際業務を担い得る職員の確保は急務と考えております。</p> <p>ただ一方で、求められる国際対応力の性質はさまざまございまして、例えば国際金融など、内部育成では培いにくい専門性が不可欠なものがある反面、都政事情に精通していることが前提となるものもございまして、適切な人材確保策は課題によって異なるものと認識しております。</p> <p>グローバル人材の確保につきましては、それぞれの課題に応じ、必要な能力を有する外部人材の活用や都庁内外での計画的な人材育成など、状況に応じた効果的な取り組みが求められるものと認識しております。</p>
<b>石川委員</b>	どの分野も専門性が高く、しかもグローバルに対応可能な人材の確保を進めるには、内部の育成と外部組織への委託だけに頼っているわけにはいかないといえるわけであります。いわば枠を新たに設定して、専門性が高く、しかもグローバルに活躍できる人材の採用を進めることも選択肢にあるのではないかと思っております。 <p>そのためには、スペシャリストを、給与等の待遇も民間に負けない条件をつくっていく必要がありますし、キャリア採用のあり方なども、さらに柔軟性を持たせることも必要ではないかと思っております。そうでないと、知事がいっております、世界から見れば一国に相当する予算や職員数の規模を持つ東京で、グローバル人材の確保としては心もとない状況から脱せないということになってしまうわけであります。</p> <p>海外からの旅行者を四千万人にしたいというような政府の議論もあるわけでございますけれども、さらなる国際化、グローバル化は避けて通れない課題であると指摘をさせていただきまして、次の質問に移ります。</p> <p>続きまして、新たな多摩のビジョンについてお伺いいたします。</p> <p>二十八年度予算、新たな多摩のビジョンの推進には、多摩の魅力発信事業も含めて一億三千九百万円が計上されております。</p> <p>多摩地域の振興に当たっては、交流人口の増加を図るため、地域資源を活用し、多摩の魅力を幅広く発信していくことも重要なわけであります。</p> <p>多摩地域は、既に人口減少社会に突入しており、西多摩はもちろんのこと、交通の要衝、多摩の中心というふうにいわれているとおり八王子市や立川市の人口も、今回の国勢調査で、五年前と比較して人口減少となっていることが明らかに変わったわけであります。</p> <p>そこで、これまで都は、多摩の魅力発信事業を展開してきたわけでありますけれども、改めて、この事業の目的と取り組み状況についてお伺いいたします。</p>
<b>佐々木多摩島しょ振興担当部長大島災害復興対策担当部長事業調整担当部長兼務</b>	多摩の魅力発信事業は、自然や歴史文化、食、いわゆる味覚でございますが、こうした多摩が有する多様な魅力を地域内外に発信することで交流人口の増加等を図ることを目的に実施しているものでございます。 <p>これまでの取り組みとしては、特設ホームページやSNSの活用、情報誌への掲載、英語字幕つきの映像の配信、各種イベントへの出展などを通じ、多摩の多様な魅力を発信してございます。</p> <p>また、昨年度創設をいたしました多摩の魅力発信支援補助事業を通じまして、市町村が行う魅力発信の取り組みに対しましても支援を行っているところでございます。</p>
<b>石川委員</b>	先を見ますと、多摩地域では、二〇一九年にはラグビーワールドカップ、二〇二〇年にはオリンピック・パラリンピック競技大会が開催をされるわけであります。この二年間続けての世界的なスポーツの祭典を絶好の機会と捉え、より多くの人に多摩を認知してもらうためにも、海外も含めて積極的に多摩の魅力の発信を行っていくべきというふうに考えますけれども、所見をお伺いいたします。
<b>佐々木多摩島しょ振興担当部長大島災害復興対策担当部長事業調整担当部長兼務</b>	多摩地域では、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックに加え、その前年の二〇一九年のラグビーワールドカップにおきましても競技の実施が予定され、地域の外から多くの方々が多摩を訪れることが見込まれるところでございます。 <p>国内はもとより、海外からも大きな注目を浴びるこの絶好の機会を逸することなく、市町村や関係局と連携を図りながら、ホームページやSNSなどを活用し、国内外に向け積極的に魅力発信を行っていくことで多摩の振興につなげてまいります。</p>
<b>石川委員</b>	これまで何回となくお話をさせていただいておりますけれども、二〇一九年のラグビーワールドカップでは、東京スタジアムにおいて開会式や開幕戦が開催をされまして、ことしの六月にも、ラグビーのテストマッチとして日本代表対スコットランド代表戦が行われることになっております。オリンピック・パラリンピックもさることながら、まずはこのラグビーワールドカップを盛り上げるべく、関係各局と連携をとりながら、多摩の魅力発信にも力を入れて取り組んでいただきたいと思います。 <p>多摩地域は、東芝、サントリー、キャノン等のトップリーグの本拠地があり、ラグビーのメッカといえるわけであります。ぜひ、まずは日本のラグビーのメッカとして多摩を打ち出し、学校教育の中でも、また地域スポーツの中でも、しっかりと振興を図っていただきたいと思います。</p> <p>また、都や市町村が力立ちをしなが、サッカーのように地域を拠点としたラグビーチームの支援に取り組みむ必要もあるのではないかと考えております。</p> <p>そして、ワールドカップ終了後も、またオリンピック・パラリンピックの七人制ラグビー終了後も、一過性のイベントとして終わらせることなく、ラグビーのすばらしさをレガシーとして次の世代に引き継いでいくことも視野に入れておくべきではないかと思っております。例えば、ラグビーのゆるキャラを制作して、多摩から発信をしていくことなども一つのアイデアではないかと思っております。</p> <p>また、オリンピックではバドミントンが、パラリンピックでは車椅子バスケットが開催をされるわけであります。これもぜひレガシー化を検討していただきたいと思います。</p> <p>最後に、多摩のまち中を走る自転車ロードレースも、既に想定をされているコースを走るロードレースもふえており、レガシー化を検討していただきたいと思います。</p> <p>レガシーという切り口で、一過性のイベントとしてではなく、交流人口の増加や海外からの来訪者の増加、地域の活性化につながっていく事業にしていかなければならないと思っております。ぜひとも地元の市町村や関係各局と連携をとりながら、スポーツを初め多摩の魅力を発信し、地域活性化につなげるよう要望して、質問を終わります。</p>